



問 「ごみゼロ宣言」の効果について問う

答 「大木町もつたいたい宣言」実現のためには欠かせない町民との協働

問 「ごみゼロ宣言」の効果等について問う。

町長 「大木町もつたいたい宣言」は、第一にできるだけ無駄をなくしてゴミの発生を減らし、発生したゴミは素材ごとに分別することで資源として再利用して、10年以内に焼却したり埋め立てたり、いわゆるゴミ処理をゼロにすることを目標にしている。

資源を無駄遣いせず、環境に優しいまちづくりを通して、子どもたちの時代につけを残さない、そして、ゴミ処理の財政負担をできるだけ減らしていくことを目指している。

「大木町もつたいたい宣言」を公表するにあたって、宣言案は環境審議会や循環のまちづくり委員会等において検討をお願いし、町民の皆さんには広報等でお知らせしてきたが、まだ十分な説明に至っていないと思っている。

しかし、「大木町もつたいたい宣言」を実現していくためには町民の皆さんとの協働が欠かせない。

今後、町民の皆さんへの説明を十分行い、町民の皆さんのご意見やいろんなアイデアを伺いながら、効果的な取り組みを進めていきたいと考えている。

「ごみゼロ宣言」の公表は私のローカルマニフェストに掲げ、その実現のための対策を進めてきた。

ゴミ削減の数値目標は、平成17年度を基準年として、平成19年度のゴミ処理量を36%削減することを目標としていたが、平成19年度のゴミの削減量は44%を超え、当初目標を大きく上回って達成することができた。

わずか2年間でこれだけのゴミを減らすことができただのは、町民の皆さんとの協働による大きな成果だと確信している。

更に、今後プラスチックごみの分別を町内全域に広げ、大幅なゴミ削減を目指していきたいと考えている。

問 リサイクルセンターにおける資源ごみ等の日曜日特別収集の拡大について問う。

時間帯	収集物
平日 午後3時から5時まで	燃やすごみ 燃えないごみ
毎月第4日曜日 午前9時から正午まで	資源ごみ 粗大ごみ

環境課長

先月1ヶ月間を見ても平日収集の総件数が801件、日曜日の特別収集が196件利用があり、利便性の良さから利用者は増加傾向にある。

近年、流入人口の増加等もあって、昔ながらの農村社会から、生活様式やライフスタイルが多種多様な世帯が集まった混住化社会となりつつあり、確かに現状の資源ごみ等の収集体制ではカバーできない部分もあるかとは

思うが、日曜日の特別収集を拡大するとなれば、各行政区でお願いしている地区分別収集との兼ね合いもあるし、人的体制の問題もある。今後、需要予測や費用対効果等を検討した上で、判断していきたいと考えている。



日曜日のリサイクルセンターの様子